

令和5年度ふるさとづくり大賞 受賞者の概要

○最優秀賞(内閣総理大臣賞)

No.	都道府県	所在地	団体名	概要
1	長崎県	大村市	有限会社 シュシュ	有限会社シュシュは元々、専業農家8人で立ち上げた会社で、地元農産物の直売所、アイス工房、パン工房、洋菓子工房、加工施設、レストラン、農業体験施設(いちご狩り、ぶどう狩り)を経営、専業農家としての自立を基本に、生産・加工・販売の六次産業化を確立するとともに農業人材の養成、都市住民との交流、食育活動、グリーンツーリズム(農家民泊やフルーツ狩り体験)受け入れなど創造性に富む活動を展開している。 【HP】 http://www.chouchou.co.jp

○優秀賞(総務大臣表彰)

No.	都道府県	所在地	団体・個人名	概要
1	山口県	山口市	特定非営利活動法人 ほほえみの郷トイトイ	地区内唯一のスーパーが撤退後、地域の活力低下や住民同士の関係悪化等への不安を、将来構想の共有により解消。その後、ミニスーパー併設の地域拠点を開設して以降、「地域の絆でつくる笑顔あふれる安心の故郷づくり」をキャッチフレーズに、地域の声を丁寧に集めながら、自ら出向く移動販売事業等の「共感」と「思いやり」を基本にした各種の事業を順次開始。現在は、人口減少下での地域コミュニティの再構築に向けた取り組みも展開中。 【HP】 https://jifuku-toittoi.com
2	長崎県		波佐見町	波佐見焼の産地・波佐見町では、やきものの生産過程で廃棄される使用済み石膏を、長年、埋立処分していたが、処理場からの受け入れ拒否をきっかけに地域内で循環できるリサイクルの手法を模索、環境負荷の軽減を目指して資源の有効活用の研究と実証実験を重ね、農地への肥料や建築材としての再利用につなげた。また、この肥料を使用した農作物と波佐見焼を用いて開発した「陶箱クッキー」は、リサイクルの取り組みを牽引し、産地のイメージアップに貢献するなど、波佐見町のまちづくりにおける象徴的な商品となっている。 【HP】 https://www.town.hasami.lg.jp
3	新潟県	新潟市	田村 寛氏	シャッター通りと化した「沼垂市場通り」にリターンした田村氏は、「街自体に活気がなければ、個人商店は成り立たない」と奮起し、商店街にかつての賑わいを取り戻すため、「株式会社テラスオフィス」を立ち上げ、青果市場だった趣のある長屋を活用して多様な個性的なショップを出店させていく手法で商店街再生を推進。「ここに来ないと出会えないヒト・モノ・空間」「古くて新しい沼垂」をコンセプトとする「沼垂テラス商店街」を誕生させ、街の歴史・文化・景観等を地域資源として活かしたさまざまな取り組みを行いながら、交流人口の増加、起業の場や移住定住者の創出など地域活性化に貢献し、現在もなお、さらなる進化に向けて挑戦し続けている。 【HP】 https://nuttari.jp/

○奨励賞(総務大臣表彰)

No.	都道府県	所在地	団体名	概要
1	熊本県	益城町	東無田地区	平成28年熊本地震において、益城町ではほとんどの家が被災し、東無田地区でも7割の家が全半壊するなど大きな被害があった。しかし、古くからの習慣や行事などで培われてきた住民同士のつながりが「共助」として力を発揮し、自主性や独自性に長けた取組により復興を進めた。東無田地区でのさまざまな取り組みは災害復興、住民主体、交流人口の増加、過疎化対策など全国でも類を見ない地域再生の活動で全国の専門家からも注目をされている。 【HP】 https://higashimuta.com

令和5年度ふるさとづくり大賞 受賞者の概要

○団体表彰(総務大臣表彰)

No.	都道府県	所在地	団体名	概要
1	岩手県	大槌町	岩手県立大槌高等学校復興研究会	大槌町唯一の高等学校である大槌高校は、東日本大震災発災後、生徒たちが自身も被災をしながらも有志として積極的にボランティア活動に参加した。2013年に生徒自身が有志の活動を総称して「復興研究会」と名付け、現在に至るまで活動を続けている。年3回、同じ時期・場所・角度から大槌町の変化を撮影する「定点観測」や、大槌町のこども園や学童施設で子どもたちの相手をする「キッズステーション」、県内外から復興を学びに来校する中学生や高校生に震災の教訓を伝える「他校交流」など、復興過程の記録や伝承、大槌町の活性化に貢献した。 【HP】 http://www2.iwate-ed.jp/oht-h/
2	山形県	山形市	山形大学 Team道草	山形大学の集中講義で金山町とのつながりができたことをきっかけに、2013年に15名の学生同志によってTeam道草を創設。学生の“やってみよう!(夢・興味)”と地域の“やってみよう!(想い・地域資源)”を結び付け、学生視点での地域活動を展開している。 具体例: 金山町の魅力を県内外の若者に発信する「Kaneyama lovers project」、大学がない地域での学習支援、高齢者等への弁当配達、子ども向けイベントの開催等 【HP】 https://www.facebook.com/profile.php?id=100063593829598
3	山形県	酒田市	合同会社 とびしま	飛鳥は、山形県の最北端にある周囲10kmの小さい島で、人口約170人、高齢化率約80%、平均年齢約70歳と人口減少・高齢化が急激に進んでいる。島の雇用の受け皿とコミュニティを維持するために社員全員が島に生きる一人として、それぞれの個性を押し出しながら地域の力を活かせるよう取り組んでいる。 【HP】 https://www.tobi-shima.com
4	東京都	江戸川区	えどがわメティ普及会	全国で最多となるインド人が暮らす江戸川区。国内では栽培例が少ないインドでメジャーな野菜「メティ」の生産普及活動が行われている。きっかけは多文化共生を目指し、ボランティア活動をする市民グループが、在住インド人との交流の中で聞いた「生のメティは日本では手に入らない」というつぶやきだった。「インド人が慣れ親しんだ故郷の野菜を、区内農家で生産したい!」この実現こそが真の共生社会を目指す姿であると「えどがわメティ」として、地域の新たな名産品になることを目指し、農家や仲間とともに取り組んでいる。 【HP】 https://www.edogawa-methi.org
5	新潟県	十日町市	特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構	女子サッカーにおけるプロ契約の高い壁と高齢化が進み美しい棚田を守る農業の担い手不足という2つの課題に対し、女子サッカー選手が越後妻有地域(十日町市・津南町)に移住・就農しながらプレーすることで、選手は働きながらプロリーグ参入を目指す環境を得られ、また、地域にとっては若者が農業の担い手となることで高齢化の進む地域問題の解決の糸口にしたいという狙いから、このプロジェクトが生まれた。現在、選手は農業だけではなく、本団体が主催する「大地の芸術祭」の運営にも携わっている。 【HP】 https://www.echigo-tsumari.jp/
6	兵庫県	豊岡市	豊岡演劇祭実行委員会	豊岡市の目指すまちの将来像である「小さな世界都市-Local&Global City-」の実現にむけて、“深さをもった演劇のまちづくり”を推進するための1つとして演劇祭を開催している。国内外のアーティストの創造発信や交流の場をつくり、市民などが多様な文化・価値観に触れる機会を創出することで、地域振興、国際交流などへの貢献を目指している。5年でアジア最大、10年で世界有数の演劇祭を目指して取り組みを進めている。 【HP】 https://toyooka-theaterfestival.jp/
7	奈良県	川上村	公益財団法人吉野川紀の川源流物語	2002年から20年以上、紀の川(吉野川)源流の川上村を拠点に、水源地の森の保全と流域や都市部との交流・連携活動を進めた。環境学習を事業の柱に置き、さらに2015年から川上村の「川上宣言」や豊かな自然などの地域資源を教材化するESD(持続可能な開発のための教育)を推進。学校教育団体向けだけでなく、行政や住民と一緒に地域を見直す機会として実践している。スローガンは、『授業づくりで、地域と人がかがやき、つながる』。 【HP】 https://www.genryuu.or.jp
8	和歌山県	新宮市	新宮山彦ぐるーぷ	新宮山彦ぐるーぷは、昭和49年に発足し「山を歩いて自然に親しみ、体験を通してモノを考えよう」という趣旨のもと、山岳奉仕活動に取り組み始めた。後に、「さびれた大峯南奥駈の道をよみがえらせ、日本古来の精神文明を見直す」ことを目的とした活動を展開する。荒廃した南奥駈道の刈拓きを、修験行者の千日回峰行になぞらえ、「千日刈峰行」と銘打ち、道の開拓に着手。これが、現在の奥駈道の維持管理活動や山小屋の維持管理の原点となっている。 【HP】 shingu-yamabiko.com/

令和5年度ふるさとづくり大賞 受賞者の概要

No.	都道府県	所在地	団体名	概要
9	岡山県	倉敷市	児島ジーンズストリート推進協議会	シャッター商店街となった味野商店街の活性化のため、2009年11月に児島ジーンズストリート構想をスタート。地域資源であるジーンズ関連企業を中心に店舗誘致することで、商店街と地域の賑わい創出と地場産業である繊維産業のPRに取り組んだ。その効果は商店街だけに留まらず、児島＝ジーンズのイメージ定着や飲食店や観光業など幅広い業種に波及している。 【HP】 http://jeans-street.com/
10	徳島県	美馬市	株式会社 MIMAチャレンジ	過疎化により国の重要伝統的建造物群保存地区「うだつの町並み」が衰退しており、地元自治会を中心に産学金官が一体となって立ち上げた「うだつの町並み再生協議会」に当該団体も参加し、対策を協議。その後、美馬市が発注した町並み活性化の委託事業を受託し、地域の課題であった「通過型観光から滞在型観光への転換」を図りながら、雇用創出など持続可能な地方創生事業に取り組んでいる。 【HP】 http://mima-challenge.com/
11	香川県	土庄町	小豆島・迷路のまちアートプロジェクトMeiPAM	過疎化の進む離島・小豆島のかつての商店街を復活させようと、地元オーブの会社が一念発起。アートを主軸とした観光事業に10年以上取り組んでいる。特に2018年に開館した妖怪美術館はインバウンド観光の呼び水となり、地元観光エリア(迷路のまち)の賑わいを創出。移住のきっかけや地元商店への刺激にもなっている。年間1～2万人だった観光客数はコロナ前で5倍の10万人に増加。コロナ後も積極的なメディア露出による観光PRで地域振興に寄与している。 【HP】 https://meipam.net/
12	佐賀県	佐賀市	合同会社 SAGAIくすと	九州電力は、佐賀県の県立高校に寮がなく、有望な高校生が寮のある県外の高校に進学していることを県との調整会議で聞き、使用されていなかった九州電力の社宅をリノベーションし、佐賀県の高校に通う生徒のためのアスリート寮として活用している。運営は、県内企業9社(九州電力含む)の出資による合同会社SAGAIくすとを立ち上げ、寮生活に必要な設備の保全・維持や、寮生への住居・食事の提供及び生活指導を行っている。 【HP】 https://m.facebook.com/sagaiquest
13	長崎県	平戸市	安満の里 春日講	平成22年2月に平戸市の春日集落が「国の重要文化的景観」に選定されたのをきっかけに平成23年4月に住民組織である「安満の里 春日講」が発足し、春日集落の全世帯が会員となって、棚田を生かしたまちづくりに取り組んできた。平成30年7月には、「平戸の聖地と集落(春日集落と安満岳)」として、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産に登録され、棚田とキリシタンの歴史を生かした持続可能なふるさとづくりを目指し、来訪者の受け入れや保全活動等に取り組み続けている。 【HP】 http://kasugakou.web.fc2.com https://www.facebook.com/kasugakou
14	長崎県	東彼杵町	一般社団法人 東彼杵ひとこともの公社	東彼杵ひとこともの公社は、人口の流出が止まらない東彼杵町において、UIターン者らの有志で町の遊休施設であった米倉庫をリノベーションし、交流拠点施設「Sorriso riso千綿第三米倉庫」を創設したのが始まり。公社設立後も、地域商社事業、地域プロモーション事業、事業支援／コンサルティング事業を通して、町に関わるひとこともの魅力を伝え、関係人口の自然派生的な広がりを生み出している。 【HP】 http://kujiranohige.com
15	沖縄県	読谷村	よみたん民泊協会	よみたん教育民泊事業は、2006年に地元の観光事業者(有限会社沖縄スカイ観光サービス)の地域振興と交流型観光事業としてスタートした。2008年には受け入れ人数が大幅に増加したことを背景に、読谷村・読谷村観光協会推進の下、よみたん民泊協会が設立した。協会の主な活動は安心安全の充実した受け入れ体制づくり、受け入れ先としての心得について学ぼう講習会などを企画し、自らを高めサポートし合う組織として活動している。 【HP】 https://sks.okinawa.jp/index.php/service/churamura/education/

令和5年度ふるさとづくり大賞 受賞者の概要

○地方自治体表彰(総務大臣表彰)

No.	都道府県	団体名	概要
1	青森県	田子町	61年前、出稼ぎに代わる新たな換金作物として導入した「一粒のにんにく」が町の産業を築き、独自ののにんにく文化を醸成。「のにんにく」にこだわったまちづくりにより、生産から加工、ブランド化による他品種との差別化、のにんにくイベントの開催、のにんにくがつかない海外姉妹都市との交流、ご当地グルメ開発など、町を挙げてのにんにくパワー全開の取り組みにより町民が一丸となりさらなる活動へと展開している。 【HP】 https://www.town.takko.lg.jp
2	埼玉県	寄居町	新たな形での賑わいを創出するため、若い担い手や商工会等が試行錯誤しながら地域を活性化させるためのさまざまな取り組みを実施した。町でも全国の町村で初めて内閣総理大臣認定を受けた「寄居町中心市街地活性化基本計画」を5か年にわたり着実に推進した。それらの集大成として完成した寄居駅南口駅前拠点施設「Yotteco」と賑わい創出交流広場「YORIBA」は、寄居町の新たな顔、そしてまちなか回遊の拠点として、町民が集う場、来訪者を迎える場、交流する場、学習する場等に活用されており、新たな賑わいが生まれている。 【HP】 https://www.town.yorii.saitama.jp/
3	香川県	三豊市	父母ヶ浜での「天空の鏡の写真」が注目を浴び、多くの観光客が訪れるようになった三豊市。この人気を一過性のムーブメントに終わらせないためにも、新たな取り組みが市の課題としてあった。そこで、地域内外の人材が協働するコミュニティをつくることにより、既存の概念に捉われない、地域自走型の仕組みを確立。地域の発展に大きく寄与している。 【HP】 https://www.city.mitoyo.lg.jp/index.html

○個人表彰(総務大臣表彰)

No.	都道府県	住居地	個人名	概要
1	福島県	西会津町	矢部 佳宏 氏	福島県西会津町は、人口減少・高齢化が著しい過疎先進地である。同町出身の矢部氏は海外でランドスケープアーキテクトとして活躍していたが、東日本大震災を機に地域の消滅をより深刻に考えるようになり、2012年にUターン。自身の知識や経験を生かし、「西会津国際芸術村」の運営や古民家ホテル「NIPPONIA 檜山集落」の開設などを手掛け、アートやクリエイティブ人材による“故くて新しい”里山の価値を発掘。クリエイターが集まる町として新たな人の流れを創出している。 【HP】 https://www.boot-diversity.com/
2	滋賀県	長浜市	川村 美津子 氏	2011年にNPO法人を設立し、高齢者福祉事業や障害者福祉事業をスタート。多様な方々との連携を図り、介護保険外事業を進めることで、地域共生社会の実現に向けた取り組みを進める。また、空き家や耕作放棄地などを活用しながら、高齢者や障がい者、働きづらさを抱える若者などの生きがいや働く場所をつくる100JOBプロジェクトを展開。持続的で安定的な報酬を雇用する方々に提供するために、農業に限らない年間を通じた事業展開を進めている。 【HP】 http://tsudoi.sakura.ne.jp/index.html
3	鳥取県	日南町	中村 建治 氏	20年にわたる建築大工としての経験の中で、建物の解体などで長い年月をかけて成長した木が産業廃棄物として処分されるのを少しでも減らし、違う形で残したいとの思いを強め、2012年から本格的に寄せ木細工の制作に取り組み、白谷(しろいたに)工房を設立。マスコミ等を通じてその作品が話題となり、木のぬくもりを大切にした伝統的な寄せ木細工に森林環境や木に対する想いを込めて、小さな集落から世界へその価値を発信している。 【HP】 https://shiroitani-koubou.com
4	広島県	三次市	小川 治孝 氏	2007年家業を継ぐ。翌2008年、自身が運営するガソリンスタンド事故に対する地域の温かい対応をきっかけに、地域への想いが一変。地域貢献活動をスタート。地域活性化を担う中間支援組織「特定非営利活動法人地域活性化プロジェクトチームGANBO」や、地域米の独自販売サービスを担う「小川商店」を設立。「創生と循環のまちづくり」に向け、地域資源と魅力の掘り起こしや、内と外をつなぐ取り組み、起業・雇用につなげる活動に寄与している。 【HP】 https://www.ogawa-motors.com